

## E018 鏡池の横臥型溶岩樹型とスパイラクル(静岡県 GEO DATA(11) : 地学散歩(90))

著者	増島 淳
雑誌名	静岡地学
巻	110
ページ	ii-ii
発行年	2014-11-24
出版者	静岡県地学会
URL	<a href="http://doi.org/10.14945/00024582">http://doi.org/10.14945/00024582</a>

E018 鏡池の横臥型溶岩樹型とスパイラル



国土地理院 1:25,000 三島

JR 三島駅周辺には、約1万年前に新富士火山が流出した旧期溶岩の一つ「三島溶岩流・上部層」の末端部が分布している。JR 三島駅から徒歩数分の住宅街の真ん中に、溶岩層の隙間からの湧水を灌漑用水に使うために人工的に作られた池（鏡池）がある。最近は湧出量が減って夏季でも池に水がない年が多い。水のない池底に土管のように見えるのが横臥型溶岩樹型である。直径約40cm、長さ約2m程度の小規模なものである。しかし、もう一つの特徴として樹木が溶岩に飲み込まれた際に発生した水蒸気が溶岩層を押しつけて脱出した痕跡として知られるスパイラルが観察できる。住宅地の中で気軽に、溶岩樹型と、それが作ったスパイラルをセットで観察できる場所は日本中探しても稀少である。

本溶岩樹型は、2014年の秋に三島市の天然記念物に指定された。(増島 淳)